

全日本女子相撲 郡上大会 レポート

古くからの相撲独特の文化と伝統の継承を重視する大相撲の世界（プロ）では、土俵に上がるのは男性に限られています。

しかし、あまり知られていませんが、アマチュア相撲を統括している（財）日本相撲連盟では、積極的に女性の相撲を奨励しています。毎年開催されている全日本女子相撲選手権大会は16回を数え、**女子相撲のアジア選手権大会、世界大会も毎年開催されています。**

そのような流れの中で、愛媛県相撲連盟においても平成23年度の全日本女子相撲選手権大会を本県西予市野村町に誘致するなど、女子相撲の普及には、積極的に取り組んでいます。

平成24年度に岐阜県で開催される国民体育大会「ぎふ清流国体」の開催を記念して、昨年、岐阜県郡上市で開催された第2回全日本女子相撲郡上大会・小学生の部に愛媛県相撲連盟から、水沼ひかる（小学6年生）、あかり（小学4年生）の姉妹が出場しました。

今回は、この大会の模様を紹介したいと思います。

一昨年の、この大会で小学5年生の部、個人3位に入賞した姉のひかるは、優勝を逃したもの優勝は射程圏内であることを実感し、「全国大会優勝！」を目標に、一年間、相撲道場で男子に混じって激しい稽古を重ねてきました。

夏休み最後の土・日となる平成23年8月27日（土）に開催された同大会。オープン参加の大会のため、大会出場に関する経費は、選手、保護者も指導者もすべて自費になります。少しでも経費を抑えるために自家用車を運転して、大会前日の朝9時に愛媛県松山市を出発、到着したのは夕方6時でした。松山から岐阜県郡上市までの走行距離は、片道約600km。到着した夜は、岐阜県郡上市内の旅館に宿泊。翌日に備えます。

当日、朝8時に会場の郡上市総合運動公園グラウンドに設置された特設土俵に到着。大会は、一般の部（大学生、高校生含む）、中学生の部、小学生の部と全世代に渡って、体重別で試合があるので、会場に到着すると、まわしを締めたたくさんの女性が稽古土俵で四股、すり足、ぶつかり稽古等でウォーミングアップを行っています。

小学4年生の部（40kg以上級）に出場した妹のあかりは、初戦（1回戦）を勝ち上りましたが、2回戦で20kg近く体重の重い富山県の選手に敗退しました。



しかし、敗者復活戦で勝ち上がり、個人戦3位に入賞しました。

つづいて、小学6年生の中量級（50kg以上60kg未満）に出場した姉のひかる。プログラムで出場選手の身長と体重を見ると、小学6年生の中量級の出場選手の中では、身長は一番低いようです。

試合前は不安との闘い。

強気になったり、急に弱気になったり、試合前は、自分自身との闘いです。選手が弱気になりそうな時、指導者は、「誰よりも稽古してきているから大丈夫だ！」と暗示をかけて、精神的なサポート役に徹します。

しかし、いったん土俵に上ると、気持ちの強さと立ち合いの当たりの強さで、全く相手に相撲を取らせません。

全4試合とも休まず攻撃し、みごと優勝！3度目の全国女子相撲大会挑戦で個人初優勝です。

本人は不安で仕方がなかったようですが、「やればできる！」ということに気がつき、自信も深まったと思います。



〈小学6年生の各階級優勝者〉



〈水沼あかり（妹）・ひかる（姉）〉

小学生を卒業して、中学生、高校生になっても相撲を続け、愛媛の女子相撲界のパイオニアになってくれることを切に願います。

執筆／
愛媛県相撲連盟
春日館相撲道場
師範 龍山 義弘